



小学校教員向けレクチャー（コンゴ）にて



パレスチナ・ヨルダン渓谷にある村の訪問診療



パレスチナ・ビルゼイト大学の教授と学生と

Portrait

ポートレート

谷津都萌子君 看護医療学部4年

女性が、生涯健康で、平等に働ける社会の実現に貢献したい

原点は「どうすれば国際的な社会貢献ができるのか」という思い。ニューヨーク州立大学で国際関係学を学び、JICAガーナ事務所でのインターンを経て、日本GEに就職。そのかたわらボランティア活動にも積極的に参加。「医療従事者が足りず、機器も乏しい途上国でも健康は最低限守られるべき権利」と考え、学部の2年に編入し、国際保健を学ぶ。コンゴの小学校で健康診断等に取り組み、卒業研究ではアラブ社会のパレスチナで働く高学歴女性の意識を調査した。「途上国でも、日本でも、出産子育てと仕事の両立は大変です。女性が差別を受けず、健康で、生き生きと仕事ができる社会をつくることに、国際的な活動を通じて貢献したいと思っています」